

## 第1章 運 営

---

### 1-1 エデンの園 運営の基本理念

#### 1. キリストの愛(自分を愛するように、隣人を愛する)の精神による利用者支援を行います

エデンの園の基本理念は「重複障害者と共に生きる会」(1972～2011)の設立目的に見ることができます。そこには「重度の障害者の苦悩を知り、このような人々にキリストの愛の精神で奉仕する」と記されています。聖書の言葉「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい。」とは、他者の痛みや苦しみに対して、自分自身がその立場であったらどのように感じるかという思いから発し、その痛みや苦しみを自らのこととして、共に負うという意味です。つまり、「障害者や障害者の置かれた状況に関心を持ち、聖書からキリストの生き方を学び、他者を大切にし、仕えること。」だと言えます。

#### 2. 人として当たり前の実現を目指す支援を行います

利用者の「自分らしい生き方」を実現するためには支援者には「利用者主体」という視点が必要です。私たちは普段自分の意志や意向、選択や決定を大切にしていますが、自らの意志で生活のありようを決定できる状態を「自由」と言います。利用者の選択や決定も自由であるべきです。

しかし重い知的障害を持つ利用者は自らの意志を明らかにし、選択し行動する機会に乏しく、また苦手です。そこで、一つの物差しとして「ノーマリゼーションの理念＝人として当たり前の生活の実現」があります。利用者一人ひとりの意思決定支援の確立と共に、当たり前の生活を作り出し、生活環境として整えることが私たちの使命です。

#### 3. 一人ひとりの可能性を求めてリハビリテーションを推進します

創設者は「人には無限の可能性がある」として、科学的根拠に基づいたリハビリテーションを提唱しました。リハビリテーションとは、「障害者が身体的、心理的、社会的、職業的、経済的に最適な能力を発揮できる状態にする技術体系」(南雲直二氏)とされています。個別支援計画では、個人の願いを基に心身の状態、発達、適性、興味等に応じてあげられる課題の解決が、その期間のリハビリテーションターゲット(目標)です。また、リハビリテーションを進める方法は「生活モデル」であり、支援者の知識、技術、人格を含めたソフト環境からのアプローチはもとより、物理的な環境の整理が重要となります。

### 1-2 今年度の重点目標

#### 1. 権利擁護の推進

権利擁護研修を行い、利用者の人としての尊厳を大切にしたり関わりや支援を学びます。又、専門的知識や技術を学び、意見交換等により虐待を起こさない風通しのよい職場を作ります。

#### 2. 障害の多様性や高齢化に対応した研修

多くの利用者が知的障害だけではなく身体、精神、発達においても障害を持つ重複障害者がほとんどです。加えて何らかの疾患や高齢化による心身の機能低下も見られます。利用者の多様な状態に対応していく研修を行い、QOL(生活の質)を高めていきます。

#### 3. 衣食住への配慮

衣・食支援を充実し、各部屋(住＝生活環境)や活動環境を整え、清潔で明るい環境にします。

#### 4. 健康の維持・増進

活動班やレクリエーションのプログラムの中にストレッチや運動を適切に取り入れ、楽しく健康の維持・増進を図ります。また、衛生管理に努め感染症を予防します。